

2024 年度前期 大学入門ゼミフィールドワーク報告書

天王寺動物園とコリアタウン



ハルカスキャンパスにて。撮影：2024年5月18日。

阪南大学国際学部国際観光学科 渡辺ゼミ

フィールドワークのテーマが決まるまで

国際観光学科 3年 SA 大場諒也

2024年、国際観光学部は国際コミュニケーション学部と合併し、国際学部国際観光学科となりました。渡辺ゼミでも、新学科初の新入生として7人（男子2人、女子5人）を迎えました。そこに、新入生たちを補佐する3年生のSA（Student Assistant）2名と教員1名を加えた計10名で、2024年の大学入門ゼミはスタートしました。

大学入門ゼミでは、観光学の基礎を学ぶと同時に、同じゼミの学生同士が仲良くなり、大学生活に慣れることを目的として、フィールドワークを行っています。これまで大学入門ゼミの前期では、大阪市内を中心に日帰りでフィールドワークを行ってきました。

今年は、ハルカスキャンパスに集合し、学部長の松村嘉久先生のお話を聞いたあと、各ゼミに別れて大阪市内をめぐることになりました。ゼミに来た新入生の中には、県外から来た男子学生が1人います。彼は大阪の観光地にほとんど行ったことがないといえます。このため、今回は彼を大阪の観光地に案内することを主な目的として、フィールドワークを行うことになりました。

問題となったのは、どこを回るのかについてでした。県外から来た男子を案内するにしても、やはり皆おすすめする場所が違ったり、自分たちが行きたい所もあつたりと、なかなか皆の意見が合わず、時間だけが経っていきました。しかし、県外から来た男子の案内というテーマがあつたのがよかったです。おかげで、互いにどうすればよいか考え、相手の意見を尊重し、ゼミ生全員が納得のいくフィールドワークの内容になりました。

フィールドワーク当日は、まず、ゼミごとに集合し、松村先生の説明を受けました。その後、県外から来た男子が行きたいと言っていた天王寺動物園に行きました。次に動物園に行った後は電車に乗り、他のゼミ生が行きたいと言った鶴橋にあるコリアタウンへ向かいました。昼食で渡辺先生おすすめの韓国調理を食べた後は、コリアタウンでスイーツめぐりをしました。最後に大阪コリアタウン歴史資料館へ行き、コリアタウンの歴史を調べるコースとなりました。

フィールドワークとはただ現地へ行って終わりではありません。場所を決めるときからレポートを書き終えるまでがフィールドワークです。事前にその場所などのことについて調べ、また行ったときにどのようなことを感じ、何かを学んでいくのが観光のフィールドワークです。このフィールドワークがただの思い出作りの場だけではなく、観光を学ぶきっかけになればと私は思います。



写真1 天王寺動物園にて。撮影：2024年5月18日。

天王寺動物園に行ってみた

国際観光学科1年 橋爪幹太

5月24日に大阪フィールドワークがあり、天王寺動物園に行きました。天王寺動物園でどのようなことを体験したか、自分がどのように思ったかをこのレポートで書いていきます。天王寺動物園に行きたかった理由は、動物が好きでたくさんの動物を見たいと思ったからです。実際に天王寺動物園では、たくさんの動物を見ることができました。

天王寺動物園に行っても印象に残ったことがあります。1つ目は天王寺動物園で40年間働いていた飼育員さんとお話しできたことです。その飼育員さんはどの動物を見てもその動物につけられた名前が分かるとおっしゃっていました。その飼育員さんは自分がお世話をしていた動物が死んでしまうと悲しいとおっしゃっていました。2つ目は天王寺動物園では2月にオオカミが一頭死んでしまい、オオカミがいた檻の中にオオカミを追悼する花が飾られていたことです。動物に対してとても思いやりがある動物園だと思いました。3つ目は体長2メートル近くあるホッキョクグマを近くで見れたことです。ホッキョクグマを見て初めて知ることもありました。私には、ホッキョクグマが白い体毛に覆われているように見えました。しかし、動物園にあった看板には実際は透明な体毛でおおわれていて、透明な体毛が密集して白く見えると書いてありました。

天王寺動物園に行き、一番驚いたことは、鳥との距離がとても近かったことです。鳥と観光客を仕切るものではなく、ほとんど放し飼いの状態で飼育されていました。ああいった鳥の放し飼いは、石川県能美市にあるいしかわ動物園にはなかったように思います。いしかわ動物園はほとんどの動物が檻に入っており、天王寺動物園ほどの距離では観察できませんでした。

この大阪フィールドワークを通して、天王寺動物園は動物との距離が非常に近く、動物に対しての思いやりがある動物園だとわかりました。



写真1 ライオンポーズ。撮影：2024年5月18日。

天王寺動物園のカバ&オオカミ

国際観光学科1年 山田伊吹

天王寺動物園に行きました。当日は、気温が高く、湿気は今ほどなかったが、5月のわりに30°C近くありました。動物が横になり、サルやキリン、特にカバやオオカミがしんどそうにしていました。

天王寺動物園の説明によると、カバは、目・耳・鼻が頭の上面にあり、5分ほど水に潜れ、潜るときは耳と鼻を閉じます。交尾をするのも、子供にミルクを与えるのも水中で行い、野生のカバは草や水生動物を1日1頭で40~50kg食べています。

動物園の説明板にはペレット・ヘイキューブ・野菜などを混ぜて1日1頭に対し、50kg与えると書いてありました。オオカミは、パックと呼ばれる社会性の強い群れを形成しています。そして、オオカミの足の爪には2種類があり、イヌ科の爪とネコ科の爪があります。ネコ科の動物たち爪は鋭く、音を立てずに獲物に近づくため、爪を仕舞う必要があり、物陰から一気に飛びかかり、前足の爪を突き立てたり、獲物を捕らえるそうです。

一方でイヌ科の動物たちは長い距離を走る必要があるため、「地面を強く蹴る」という役割を持っています。このため、イヌ科の爪は太く頑丈でネコ科と違って仕舞うことができないと、記載されていました。群れを作り、取り込んで獲物を追い詰め捕らえます。彼らの狩りの方法に大きく影響しているのが爪の構造の違いなのだそうです。

実際の動物園のオオカミは、獲物を狩るような獰猛性がなく、暑さの影響で弱っているように見えました。カバは、草食動物であることを知っていましたが、大きい体にも関わらず、意外と食べる量が少ないと思いました。



写真1 水につかって日なたぼっこするカバ。撮影: 2024年5月18日。

大阪コリアタウンを紹介し、歴史を学ぶ

国際観光学科 1 年 古石まりあ

私は化粧品の買い物や食べ歩きでよくコリアタウンを訪れます。今回、石川県から大阪に
来た同級生に大阪の街を紹介するため、コリアタウンを訪れることにしました。

まず、鶴橋駅で降りてから鶴橋商店街にある아리랑食堂〔アリラン食堂〕で昼食をとりま
した。店員さんのほとんどが韓国の方で、日本語が片言の方もたくさんいました。注文した
料理の他に小鉢がたくさんついていたり、お客さんとの距離感も近く、日本の飲食店とはま
た違った雰囲気を感じることができました。私は石焼ビビンバを食べました。キムチが発酵
しているからなのか、少しビールのような味がしました。

そこから 10 分ほど歩いて、御幸森天満宮のある御幸森通り（コリアタウン）に向かいま
した。そこには韓国料理や民族衣装、コスメショップなどのお店がたくさん並んでいま
した。どのお店も沢山の人でにぎわっていました。ここで私はトゥンカロンを食べました。トゥン
カロンとは、マカロンに近いスイーツで、いろいろな味や形のものがありました。値段は
600 円でした。少し高いかもしれないが、見た目もかわいし、いろいろな種類のものがある
ので、それなりに楽しめると思います。

その後、御幸森通りから徒歩 5 分ぐらいの所にある大阪コリアタウン歴史資料館に訪れ
ました。そこにはコリアタウンの成り立ちや御幸森天満宮の歴史など、様々なことが書かれ
てあり、たくさんの資料が置かれていました。そこで私は消えた猪飼野（いかいの）とい
う言葉に興味を持ち、いくつかの資料を見ました。まず猪飼野とは、文字通り、「豚を飼う所」
という日本語の意味の地名です。日本が朝鮮半島を植民地支配したことにより、生活の場を
失ったり、苦しい生活を支えるために、来阪した朝鮮人がこの地で豚を飼育し始めました。
そこからこの場所は猪飼野という名前になったそうです。また、戦前、朝鮮半島の海士さん
たちが出稼ぎに来ていました。彼女たちは、済州島（チェジュド）出身で、チャムス（潜水）
と呼ばれていました。日本で潜って、海産物を売ってお金を稼いでいたといいます。日本に
出稼ぎに来るようになったのは、明治 36 年（1903 年）だそうで、昭和 7 年には 240 人が
三宅島で働いていたといいます。また、済州島と大阪を結ぶ船の航路もできて、大阪に移住
する人も増えたといいます。

今まで食べ歩きや買い物目的でしか訪れたことが無かったコリアタウンにフィールドワ
ークで訪れました。コリアタウンは何度も来ているので、何でも知っているつもりでいま
した。しかし、今回、コリアタウンの歴史を初めて知りました。石川県から来た同級生も、韓
国料理やトゥンカロンにも関心を持ってくれたようです。これからもみなに紹介してゆき
たいなと思いました。



写真1 トゥンカロン。撮影: 2024年5月18日。

アリラン食堂

国際観光学科1年 川村あん乃

ゼミで大阪フィールドワークに行きました。私たちはコリアタウンに行った。コリアタウンにあるアリラン食堂でお昼ご飯を食べました。店の場所は、JR 鶴橋駅から近鉄沿いに東へ行き、アーケード街を南に桃谷方面に行ったところにある。アリラン食堂のような韓国のアットホームな感じの食堂に初めてでした。

1つのメイン料理を頼むと小鉢がたくさんついてきて驚きました。キムチ、もやしナムル、ニラキムチ、ナスやきんぴらを甘く煮付けたものもありました。どれも今までに食べたことのないような味ばかりでした。みんなはビビンバや石焼ビビンバを食べていましたが、私はスンドゥブチゲを頼みました。全然辛くなく、おいしく食べることができました。みんなはビビンバを食べてビールの味がするといっていました。ビビンバにかける辛いソースが発酵したのかなと思いました。

石川から来た幹太はお腹がすいてなかったみたいでした。彼は、卵スープしか食べておらず、お店の方に心配されていました。お店を出るときには、韓国のおこげの餡「ヌルンジ餡」を貰いました。初めて食べる味で、あまり好みではありませんでした。

アリラン食堂では初めての体験ができ、いい思い出になりました。初めてたくさんの小鉢がついている韓国式のご飯を食べました。韓国に行った気分を感じられて本場に行きたいと思いました。



写真1 アリラン食堂。撮影：2024年5月18日。

コリアタウンの歴史

国際観光学科 1年 安藤栞

コリアタウンの商店街から外れたところにある大阪コリアタウン歴史資料館という場所に行きました。ここで、コリアタウンの歴史や在日コリアンのことについて学びました。とても人が多く、賑わっておりました。資料館のなかでおじさんやおばさんが熱心に話していました。内容を聞いていたら、北朝鮮の政治体制や今の韓国の課題などを話題にしてみました。年代関係なく、いろいろな話題について話し合っていて、すごく勉強熱心だなと思いました。

館内にはたくさんの本が置いてありました。特に在日関係の本や戦争、反日など韓国に関係するものからほかの国のものまで、いろいろな種類の本が並べてありました。そのなかで一冊在日コリアンのことが書かれている本を手にとってみました。そこには在日コリアンの子供たちが差別を受けて苦しんでいたことなどが生々しく書かれていました。

館内にはコリアタウンの歴史が詳しく解説してありました。コリアタウンができた経緯など、コリアタウンの歴史が写真や年表、当時の新聞記事などで壁一面に貼ってありました。コリアタウンに移住されている韓国人はチェジュ島から移民された人が多かったと書いてありました。

コリアタウンの商店街のマップも展示されていました。日本人のお店と韓国人のお店が時代ごとに色分けされて示されていました。最初の頃のコリアタウンは、韓国人は裏通りに店を出していて、表通りには日本人がお店を出していたことが資料をみてわかりました。さらに時代が進むにつれて、表通りに韓国人が営業するお店が増え始め、今のような若者向けのコリアタウンになっていきました。館内には歴史以外にも、韓国伝統の楽器や太鼓も陳列していました。

2000年代に入ると、サッカーワールドカップの日韓共同開催や「韓流ブーム」の影響で、コリアタウンへの注目度は飛躍的に高まったと資料にありました。2000年代以降から韓流ブームが流行りだして、今のコリアタウンの商店街に変化したのだと思いました。

館内の本や展示資料がとても印象に残りました。もともと私は韓国に興味があったのですが、K-POPに興味があったぐらいで、政治や民族問題に関しては、あまり関心がありませんでした。館内にあった本や資料がとても印象的でした。このフィールドワークで韓国について今まで知らなかったことをたくさん学びました。K-POPなどのアイドルや音楽だけでなく、韓国の政治や今までの歴史、日本と韓国の関係などをもっと詳しく学びたいと思えました。韓国に旅行に行く際も流行りの場所だけでなく、伝統的なものにも触れ合いながら楽しんでみたいなと思いました。



写真1 コリアタウン歴史資料館。撮影：2024年5月18日。

あとがき

今年、2024年4月、国際観光学部は国際学部となりました。3月に南キャンパスから本キャンパスに移転し、研究室も8号館の3階に引越しました。10月になり、6ヶ月になろうとしていますが、いまだに本キャンパスにはなじめたのかよくわかりません。研究室には、2年生以上の学生が昼食を食べにやってきます。彼らも本キャンパスの中で居場所がないのでしょうか。研究室を休憩室だと思っているようです。国際学部になっても、2年生以上は国際観光学部のままです。しばらくは新学部と旧学部が併存する状態が続きます。

今年の1年生は国際学部最初の学生です。私が今年受け持ったクラスの学生はとても仲が良くて驚きました。もともとAO入試で入学した学生なので、コミュニケーション力があるのはたしかなのですが、はじめてゼミをした日にみなが仲良くなりました。石川県から来た男子学生を囲み、「下宿しているの？ じゃあ、みんなでかんちゃんの家遊びに行こう」となったのには驚きました。フィールドワークのテーマや場所をきめる時にも、「かんちゃんを案内しよう」と、みなそれぞれお気に入りの場所をあげていました。動物園になったのは「かんちゃん」がぜひ行ってみたいといったからであり、コリアタウンになったのは、韓国に関心がある女子学生が多いということのあらわれのようです。

他には、大阪天満宮の商店街や大阪空襲の展示のある「ピースおおさか」もフィールドワークの候補に挙がっておりました。コリアタウンでも資料館で在日韓国人の歴史を学び、視野が広がったと、学生たちはいっておりました。今年の学生たちは、なかなか向学心のある人達なのかもしれません。これからが楽しみです（渡辺和之）。

++++
渡辺和之（編）『2024 度前期大学入門ゼミフィールドワーク報告書』阪南大学国際学部国際観光学科渡辺研究室 2024年10月10日発行

〒580-8502 大阪府松原市天美東 5-4-33 阪南大学渡辺和之研究室

電話：072-332-1224（内線：8326）メール：watanabe@hannan-u.ac.jp

URL <https://www.hannan-u.ac.jp/>

Kazuyuki Watanabe (ed.) 2024 Tennoji Zoo and Korean Town: Students' Fieldwork Reports 2024. Osaka: Department of International Tourism, Hannan University.

Address: 5-4-33, Amami-Higashi, Matsubara, Osaka, 580-8502, Japan.

E-mail: watanabe@hannan-u.ac.jp

本レポートの写真はすべて渡辺が撮影しました。

++++